

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

実施期間 令和2年2月20日～2月26日

事業所名 放課後等デイサービス飛行船

事業所名 放課後等デイサービス飛行船

職員数 7 回収数 7 割合 100 %

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	5	2		・スペースは十分ではないが利用人数平均10名 前後なので一部屋に偏らないよう過ごしている ・活動ごとに部屋を区切っている(宿題・活動) ・今よりも広い物件を探しているが近隣に物件自 体適したものが無い
	2	職員の配置数は適切である	7			必要人員配置+1～2名の職員を配置している
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	4	3		・敷居の段差は補助具で引っかかりをなくし出来 る限りの配慮を行っているが身体介助が伴う児 童のトイレ介助が厳しい。福祉用具企業へ相談し 改善に向け努力している。 ・すべてをバリアフリーにせず、適宜対応する力 を児童に伝えている(安全面に留意し考慮したう えで)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画してい る	7			日々のミーティング、飛行船の会議にて児童の個 別支援計画や最近の様子等を話し振り返りを 行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	7			アンケートだけではなく送迎時の会話などにより保護 者の意向を把握する事に努めている。アンケートにて保護 者が何を求めているかを結果を踏まえて話し合い、ど のような支援を行ってほしいかを話し合っている。 また事業所内のケース会議にて話し合い、これからの 支援の取り決めを行っている。今後も継続していき たい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	7			飛行船だよりにて結果公表している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	5		2	法人内での評価は行っているが、第三者の外部 評価については選定していない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	7			・職員の経験年数、支援スキルに応じた研修に 参加する機会を設けている。研修を受けた職員 は施設内研修にて伝達研修を行い、全員が周知 し統一したスキルを持つようになっている ・法人内部外部、県主催の研修に多く参加
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	7			毎年アセスメントを行い、児童の成長等について 保護者さんと共有、状況把握をしている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		活動についての計画シートを用い(計画・目的・ 結果・報告)立案をしている。職員全員の足並み が揃うよう努力が必要。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	7			日々の様子、計画を踏まえミーティング、ケース 会議にて工夫している。季節に添った内容、行事 を取り入れている。個々に添った支援グッズを用 意し活動している。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7				長期休暇前には会議を開き、平日に行えない課題活動について立案。楽しく、学べる工夫をしスケジュール表にて児童にも伝わるようにしている。事前に必要物品やご家族で関われる課題を設定する等も行っている。土曜日については利用児童の体調や天気の考慮し活動内容を決めている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7				12、13項目の通り活動、計画作成
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7				必ず綿密に行っている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	5			送迎、延長支援とで十分に時間が取れず終了後のミーティングは殆ど行えない状況である。職員間でのケア後ミーティング用紙へその日の振り返りについて担当者が記入。早急に行わねばならない伝達事項の情報共有、振り返りを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				主観が入らないよう正しい記録にて保護者にお伝えするようにしている。記録についての研修を行う、記録をとった職員以外の職員が内容確認をしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				基本半年に一回(年二回)モニタリングを行い、他必要時に保護者へお話し事業所内、訪問にて機会を設けている
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7				ガイドラインを把握している
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7				児童発達支援管理責任者・現場責任者が主に参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7				先生方の忙しさ(特に普通学校)もありその日の申し送りが薄いと感ずる事はあるが、なるべくこちらから様子を聞き出し支援に取り入れるようにしている。トラブル発生時は保護者さんを通じて、引き渡し時に申し送る、他電話にて行っている。一斉連絡メールを活用していく予定(可能な学校さんと)。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7				保護者より医師が確認した指示書の提出をいただいている。緊急時にはその内容に沿って対応する
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	3			利用児童の全てではなく必要とされる児童に対して行っている。全児童に対し行う事が必要であると感じている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	3			相談支援専門員の方と連携し、必要児について情報提供している。又、卒業後も必要に応じて居場所として施設への来所を承諾している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1			自施設の支援方法が適しているのか等専門機関に相談し、助言や訪問にてアドバイスを受けた
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	2		地域の行事に積極的に参加し機会を設けている。今年度は工区のBBQ交流会に参加したが地域の児童とは挨拶での交流であったので、次回もう少し深く関わりを持てるようにしたい。他、職員のお子さんが来所し児童たちと関わるよう普段から取り組んでいる。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1			滝沢地域福祉事業所(おおぞら・飛行船)、ワーカーズコープとして参加している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7				送り時やお迎え時、様子お伝えし共通理解に努めている

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	3			全ての職員が行えていないので今後もペアトレの研修等積極的に受講し支援に活用していく(職員はペアトレ、ペアトレメンター研修受講している)
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7				ご契約時に説明しているが必要時等再度行いご理解に繋げなければならない
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7				日頃の様子等でお伝えしているつもりではあるが今後も助言支援出来るよう努めていく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7				毎年1~2回、保護者様同士が交流できるよう保護者交流会を開催(音楽会、ビュッフェ食事会、お茶会)、今年度より「いばしょLAB」と題し気軽に参加できるスタイルの保護者交流会としている。認知度や活動の目的が保護者に伝わりづらくなっているようなのでより明確にし活動を今後も行っていきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	3			苦情相談について窓口、解決担当者選任し体制は整えている。苦情件数は少ないが今後も研修等で意識を高め対応していきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7				児童の様子(写真・活動・様子)についておたよりで伝えている。感染症の予防策や、育児についての相談受付についても記載。
	35	個人情報に十分注意している	7				業務での書類は必ずシュレッダーにかける事としている。他、研修で守秘義務についても学び意識するようにしている(入職時には個人情報についての説明と誓約書へのサイン押印)
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3			現在はこちらから地域に出向いている。同事業所のおおぞらにて地域懇親会を行った。長期活動ではご近所のお子さんを呼びプール活動を行った。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7				デイルーム内にマニュアル設置しているが保護者に伝わるよう玄関内に設置していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7				毎月一回避難訓練を行っている。訓練内容が固定化しないよう様々な角度から見て行っている(防災リュック点検、危険箇所探し、紙芝居)
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7				密室にならないように環境を整える、法人内・施設内研修を行う、岩手県虐待防止研修(管理者・職員向け)に参加。ものを言い合える風通しの良い職場へ努力している。今後も引き続き意識向上したい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7				ミーティングにて対応を綿密に話し決定する。身体拘束について理解し、計画記載している
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	6			アレルギーに関して保護者より情報収集はしているが、対応はしていない事説明している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7				ヒヤリハット報告について全職員共有し確認。会議でも再度振り返り行い危険性や再び起きないように話し合っている